



秩父鐵道

沿線名所図繪

文・藤本一美

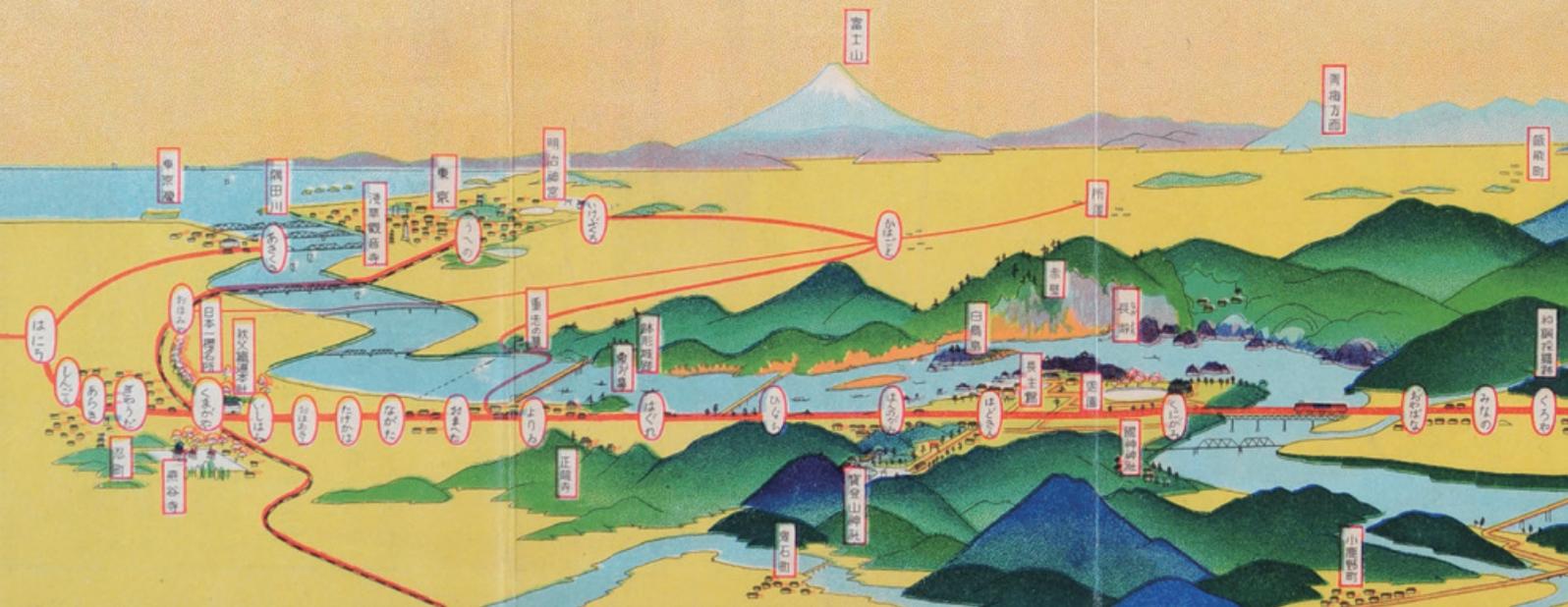
text by Kazumi FUJIMOTO

埼玉の平野部を横断し、荒川の溪谷沿いから秩父盆地の奥地まで走行する秩父鐵道（秩鉄）。行楽シーズンの週末には、蒸気機関車「SLパレオエクスプレス」が運行し、「撮り鉄」や「乗り鉄」を楽しませてくれる。

もとは、明治三十二年設立の上武鐵道が前身で、同三十四年に熊谷―寄居間が開業。当時は養蚕や製糸業（秩父銘仙）の盛んなのに加えて、武甲山の石灰石鉱床の存在が注目され、初代社長の柿原萬蔵ら地元大宮郷の有力者の力添えもあって、同三十六年に寄居―波久礼、同四十四年に藤谷淵（後に宝登山と改称、現・長瀬）まで延伸。大正三年、宝登山―大宮間開業。大正五年には大宮町が秩父町（現・秩父市）となった直後に、秩父鐵道と改称。翌六年に影森まで。さらに七年には武甲（貨物駅）までの支線を開業しているが、旧浅野セメント（現・秩父太平洋セメント）採掘現場の最寄り駅だったことが、大正十一年八月作

藤本一美
首都大学東京・専修大学非常勤講師。地図情報センター理事。日本地図学会評議員。鳥瞰図・展望図資料室兼山岳情報資料室主宰。近・現代の鳥瞰図絵師の作品収集と研究に精力的に取り組んでいる。著書に「旅と風景と地図の科学Ⅱ」（私家版 2006年）、最新刊に「展望の山50選 関東編」（東京新聞出版局）がある。

大正
初
年



『秩父鉄道沿線名所図絵』
(大正11(1922)年8月28日)
秩父鉄道株式会社 発行
東京市京橋区の大正名所図会合資会社 印刷

埼玉を代表する観光地「長瀨・秩父」。 蒸気機関車「SLパレオエクスプレス」が人気。



秩父鉄道株式会社 Chichibu Railway Co., Ltd.

設立：明治32(1899)年11月8日
本社：埼玉県熊谷市曙町1丁目1番地

埼玉県北部、埼玉を代表する「長瀨・秩父」を走る「秩父本線(秩父線)」と、貨物専用線の「三ヶ尻線」を持つ秩父鉄道。2路線を合わせた営業キロ数は79.3kmで、地方民鉄有数の路線長を誇っている。また、直営の「長瀨ラインくだり」は大正時代からの歴史を持っており、開業以来、長瀨渓谷や宝登山の観光振興に貢献している。

都心から一番近い蒸気機関車として人気の「SLパレオエクスプレス」は、昭和63年に運行を開始。秩父本線熊谷駅―三峰口駅間の56.8kmをおよそ2時間30分かけて走行する。毎年3月中旬から12月初旬の期間中、土日祝日を中心に、学校の長期休暇中には平日にも運行しており、車窓に広がる絶景を楽しむ観光客で賑わっている。



の本図でも表現されている。行田―熊谷を開業した同年、羽生―行田までの北武鉄道を吸収合併しているの、その記念に刊行されたものであろう。初三郎の「絵に添へて一筆」によれば、大正天皇第二皇子に秩父宮の宮号を贈られたことを記念に、ということだが。

なお、赤の破線で図示の未成線は昭和五年には白久の先の三峰口まで延伸し、全通している。

炎暑の中の現地踏査で決めた大胆な構図は(東京・鯉州の画室利用)、北側上空からの視点で、大正期の画風だ。眼下、左に東京や熊谷、秩父鉄道本社屋。遠景に大きな富士山を、中央左右には荒川の流れとスポンサーの赤く太い秩父鉄道路線が目立つ。

秩父の象徴・武甲山や名勝長瀨の岩畳、宝登山神社、右奥に三峰神社の境内図を配置し、旧表参道の参詣路は克明な描写である。三峰ロープウェイは昭和十四年開業(現・廃止)なので図化されていない。三峰奥社の妙法ヶ嶽や背後の白岩嶽、雲採嶽(現・雲取山)の霊峰三山が三峰の起りとか。

ついでだが『上武鉄道沿線遊覧案内』(大正三年)と『創立百十周年記念乗車券』(平成二十一年)は好資料である。